

家族への思いが食への興味、 そしてビジネスに



精力的に講演活動を行う澁谷氏

澁谷耕一氏

リッキービジネスソリューション株式会社代表取締役
神奈川県政策顧問

日本興業銀行入行後、ニューヨークや香港支店で活躍。2002年には地方銀行フードセレクションを運営するリッキービジネスソリューション株式会社を設立。現在は経営業の傍ら、神奈川県政策顧問としても活動。著書に「感謝する力」(金融財政事情研究会)など

元々日本興業銀行の銀行員として、ニューヨークや香港を拠点に活躍していた澁谷氏。食に興味を持ったのは、思いも寄らない出来事がきっかけだったという。「13年前妻を亡くしました。子供が幼かったということもあり、さびしい思いをさせまいと食事を自分で作るようになりました。改めて食の安心・安全に興味を持つようになったのです。」それと同時に銀行を辞め、より家族と過ごせる時間の多い起業の道を選んだ。自らのキャリアで得た金融機関とのネットワークと、食を関連づけていくのは自然な流れだったと言う。「日本は、地域ごとに食の独自性を持っており、地域ならではの食の食が多い。こだわりの食を作っている食品メーカーを首都圏のバイヤーにつなぐことにより、販路拡大のお手伝いをしたいと考えようになりました。地方銀行は銀行ごとに独自に食の商談会を開催していますが、多くの地方銀行同士が連携することに、日本中のこだわりの食品が集まる。それはバイヤー・メーカー双方にとって非常に魅力的な商談の場となるのではないかと考えて思いついたのが、現在、弊社が企画運



FAN AWARD

商品開発、販促企画、啓発活動一。
受賞企業が明かす、国産へのこだわり

審査委員の澁谷耕一氏にお聞きしました

人を育て、 新たな成長産業を生む! フード・アクション・ニッポン アワード

FANアワードに関わる人々の、それぞれの思い。
2013年の審査委員を務めた
リッキービジネスソリューション株式会社社長の澁谷耕一氏に、
その意義についてお聞きしました。



営している「地方銀行フードセレクション」です。これは、県や地域を超えて、全国の有力地方銀行が主催し、取引のある食品メーカーを首都圏のバイヤーに紹介する取組です。本展示会は、地域活性化の「翼」を担っています。また、地域を越えた食品メーカー同士のコラボレーションによって、新たな商品を生み出す機会にもなっているといえるでしょう。」2013年は640社が参加、今年で9回目を迎える「地方銀行フードセレクション」に今後も注目していきたい。

新たな産業の育成の裏に フード・アクション・ニッポン アワードが担える役割

「地方銀行フードセレクション」への取組は、フード・アクション・ニッポンアワード(FANアワード)への思いへとつながる。

「地方の食文化を守り、ゆくゆくは農業を日本の新たな成長産業にしていこう。それが私のFANアワードに期待するテーマです。2013年に、和食がユネスコ無形文化遺産への登録をされたことも記憶に新しいですが、日本食の海外での評価は、非常に高い。今後も観光産業を強力にフッシュアップしていくことは間違いありません」と澁谷氏は語る。それでは、審査委員から見た、FANアワードの魅力はどこにあるのか? 「競争の中に身を置かないと、作り手主体な考え方に偏ってしまいがちですが、こういった大規模な企画の中で同業他社の商品を知ることで、視野を広げ、マーケットを冷静に見る目を養うことができるでしょう。また、個人的には、若手社員に参加してほしいですね。提案をし、顧客のニーズを知る。それは食産業を支える中小企業の成長にもつながります。これからは食に関心の高い女性の企画力や発想力にも期待したいですね。」そのような方々の参加が増えることによって、FANアワードはさらに価値を高めていくことができそうです。



多くの参加者に恵まれた2013年のフード・アクション・ニッポンの会場

ニッポンの食を自分たちの力で支え続けるために

FAN

[ファン]
Food Action Nippon



[巻頭特集]

フード・アクション・ニッポン現地取材報告

推進パートナー達が魅せる!

日本の食の力が
ここに集結!

ニッポンの食を未来へつなぐ



食料自給率

日本の食料事情のはなし



[第2特集]

<フード・アクション・ニッポン アワード>

商品開発、販促企画、啓発活動—
受賞企業が明かす、国産へのこだわり

■事務局長インタビュー

かけがえのない日本の食を
未来に引き継ぐために

